

# 枯れない花を心に咲かそう

三浦恵子

いつだって そうだったんだ

淋しさが 僕ら人間の心を虚しくさせ  
苦しみが 痛みを荒だたせ  
辛さが 努力する気持ちを失わせてゆく  
だけど

本当に大切なものは  
そこで知ったものは 何なのかを  
忘れずにいること

失いながら 苛立ちながら  
何が 僕らの心を 揺さぶっただろう

壊れている人間は きつと  
いるようで 本当はいない

皆それぞれが 悩み苦しむたびに  
どれが 正しいのか わからなくなつて  
いつの間にか きこちなさを  
生んでしまふ

なぜ 人は 過去ばかり 振り返るのか  
それはきつと

何度も泣きながら

それでも それでもと

生き抜いてきた この時代が  
大切なものを

守るために あるのなら

たとえ 過去を思い出して泣いても

明日を 夢見る希望を

幾千もの蕾へと変えて

僕らの中で 咲いてゆく  
強さを 見せてくれないか

心に降る たくさんの痛みよ

心の雨よ

僕らの中で ひたむきに生きる

大地の根よ

泣き崩れるたび 震えるこの心を

守るように 支える 愛をくれないか

皆が生きようとしながら

この心の瀬戸際で

ずっと 叫んでるこの声を

花園へと 変えてくれないか

人は 誰でも 取り戻したい

大切なものに出逢っているから  
戻らないことを

諦められず 取り乱しては

我を 失ってしまうんだ

だけど本当は 誰もが

自分を変えたくて仕方がない

日常の一部ではなく

長い人生に そっと寄り添うものとして

これが 悲しみの中

必死で 生きてきた

僕ら人間の 精一杯の姿

だからお願い

狂ったなんて言わないで

どんな時も

ここで 闘い 築いてきた

かけがえないものが

こんな僕らの中にだって

ちゃんと 存在しているはずだ

無意味なものなんてきつと

この世界には ひとつもないよ

僕らの中で 生きる意味が

ここで 育つように

明日へと 伸びゆく強さを

生み出してゆく

今 ここにいる自分が

きつと その姿を 見つけてゆける

見てごらん 涙が

そんな心の大地に そっと染み込み

綺麗な花を 今日咲かせているよ

気づかないだけで

たくさんの 命を咲かせているよ

心に生まれた

たくさんの感情が見せる

毎日の葛藤の片隅で

花達は 今日僕らを信じ

穏やかに

笑顔という名の お日さまに

包まれながら 揺れているよ

いつまでも枯れない

僕らという名の

花を咲かせて――

三浦恵子

みうら けいこ

1982年生まれ

岩手県一関市在住

家事手伝い